横浜市立瀬ヶ崎小学校　学校便り
せがさきの風
大きな朝日さしのぼる　希望と愛の花が咲く
世界に窓を開け放つ　瀬ヶ崎小学校
〒236-0037　横浜市金沢区六浦東三丁目２番１号
TEL 781-2446・2447　FAX 701-4892
ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/
メールアドレス y3segasa@edu.city.yokohama.jp

12月号
2019（令和元）年
11月29日発行

だれかを思って　だれもを思って

学校長　梅田　比奈子

「学校に入学して、いろんなことができるようになった。そんな自分をみてほしいな。」「たくさん工夫してつくったおもちゃ。みんなにも楽しんで欲しい。」「アイロンビーズ、喜んでくれるかな。」「もりのお茶の間のようなやさしい場所をみんなでつくりたい。」「様々な人のことを知ってもらって、みんなでやさしいまちをつくりたい。」「今来年入学してくる１年生が安心してこられるようにしたいな。」「いじめをなくすためには、何かあった時に、見て見ぬふりをするのではなく、声を出していかなければいけないということをみんなに伝えたい。」

ふれあいフェスティバルに向けて、それぞれの学年で考え、活動している様子を見ると子どもたちが「だれか」を意識していることが伝わってきます。この「だれか」には、いろいろな人が入っています。会場を訪れてくれる人はもちろん、その人からつながる人、そして、そこからまたつながる人・・。そうやって、人と人との関わりを、子どもたちは無意識のうちに大事に考えているのではないかと思います。

かつて、新聞に次のような内容の投書が載っていました。その内容は、次のようなことです。知的障害のある 22 歳の男性が勤務先に向かう途中、異臭騒ぎで電車が止まってしまったそうです。その人は、途方に暮れて、車内から携帯でお母さんに電話をしました。お母さんがいろいろ心配して聞きましたが、状況がよく分かりません。そしたら、突然、電話の声が女性に変り、その方が状況を説明し、心配事を聞き、一緒に別の電車に乗り換えますと言ってくれたそうです。お母さんは、その気持ちと行動に涙が出るほどうれしかったと記していました。

改めて、この投書を読んで、4 月にいただいた電話の事を思い出しました。昨年のふれフェスに向けて、柳町ケアプラザと関わった現 5 年生が、何だか様子が心配な高齢者と出会い、声をかけ、そして、ケアプラザに人に呼びに行ったそうです。ケアプラザの方が一緒に来てくれ、その高齢者の方と関わってくれ、その後、ケアプラザからお電話をいただいたのです。「とってもうれしかった」と。その人を助けたい、そのためには大人の力も借りなければと考え、行動に結び付けた子どもたちは、投書の女性と同じような気持ちだったのではないかと思います。

昨年度のふれフェス

ふれあいフェスティバルは、「ふれあう」フェスティバルです。だれかを思って考え、だれもを思って伝える・・そして、自分たちがなかまと共に作り上げてきたものに自信をもって、発表してほしいと思います。12 月 7 日は、きっと自分も周り人もあたたかい、豊かな時になるのではないかと思います。ぜひ、皆さん、素敵な子どもたちに会いに来てください。